



第11回 全国大学 まちづくり 政策フォーラム in 京田辺 報告書

「全国大学まちづくり政策フォーラム in 京田辺」実行委員会

ごあいさつ



「全国大学まちづくり政策フォーラム in 京田辺」実行委員長
真山 達志（同志社大学政策学部教授）

京田辺市には同志社大学京田辺キャンパスがあり、京田辺市と同志社大学とはこれまで連携して地域の活性化に取り組んできました。このような大学との連携をさらに発展させ強固なものにするために、両者は2006年11月に『全国大学まちづくり政策フォーラム in 京田辺』を設置しました。本フォーラムは、「全国の大学生や大学院生が京田辺に集い、政策を多角的に議論するとともに、政策の実施、評価の一連の政策過程を射程に入れた『まちづくり政策議論』の必要性を発信し、全国の自治体の活性化に寄与すること」を目的としています。そして、最初のフォーラムを2007年に開催し、その後多くの皆さんのご理解とご協力を得て、今年は第11回を数えるに至りました。

少子高齢化、東京一極集中、格差社会の拡大をいかに食い止めるか、旧来のコミュニティの衰退に対してどの様に対応するか、地域経済の停滞をどのように解消するかなど、地域が抱える課題は多種多様でありかつ解決が困難なものばかりです。このような課題について、これまで11回にわたって活発な政策づくり活動が展開され、京田辺市をフィールドに大学生や大学院生が地元京田辺市の多くの皆さんのご協力を得て調査・研究を進め、問題を掘り下げ、課題を明確化した上で、具体的な解決策を提案することに務めてきました。

回を追うごとに内容が深化し、次々に新しくユニークな提案が生み出されてきました。そして、学生や大学院生の研究・学習を深めることにつながるだけでなく、京田辺市をはじめ多くの地域の問題解決に貢献してきたものと自負しています。

お陰様で、「第11回全国大学まちづくり政策フォーラム in 京田辺」も成功裏に終えることができました。全国から6大学11チームの大学生・大学院生の皆さんに参加していただき、多くの意欲的な研究成果が発表されました。本報告書は、その成果を全国のまちづくりに関わる市民、学生、行政、研究者等にお知らせするとともに、さまざまご意見やご批判をいただくためにまとめたものです。まちづくりの実践者や研究者の何らかのご参考になることができれば望外の幸せです。

最後になりましたが、第11回フォーラムの開催にあたり、趣旨にご賛同をいただいた参加大学の先生、学生の皆さん、事務局業務だけでなく市内調査等のお世話をしていた京田辺市職員の皆さん、そして調査や学習のフィールドを提供してくださった京田辺市民の皆さんに対して、心から御礼申し上げます。

2017年4月

「第11回全国大学まちづくり政策フォーラム in 京田辺」開催要項

1 目的

全国の大学生や大学院生が京田辺市に集い、政策を多角的に議論するとともに政策の実施プログラムを作成し評価する、一連の政策過程を射程に入れた「まちづくり政策議論」の必要性を発信し、京田辺市を始め、全国の自治体の活性化に寄与することを目的とする。

2 主催

「全国大学まちづくり政策フォーラム in 京田辺」実行委員会

3 共催

京田辺市 同志社大学

4 開催日

平成29年2月26日（日）から2月28日（火）までの3日間

5 開催会場

京田辺市内

同志社大学京田辺校地

6 内容

（1）政策提言

①京田辺市における魅力あるまちづくりのための政策提言

②大学と地域との連携をテーマとしたゼミの研究成果

（2）政策提言発表

参加チームごとに政策提言を発表する発表会を行う。

（3）その他

開催スケジュールは別途日程表にて定める。

7 参加者

- (1) 全国の大学生・大学院生
- (2) 参加に関することは別途参加者募集要項にて定める。

8 周知方法

- (1) 広報京たなべへの掲載
- (2) 本市ホームページへの掲載
- (3) 市の公共施設にチラシを配架
- (4) ポータルサイト掲示板に案内掲載

9 その他

優秀な政策提言を行ったチームには、賞を授与する。

10 問い合わせ先

京田辺市市民部市民参画課

〒610-0393 京田辺市田辺 80 番地

電子メール：seisakuforum@kyotanabe.jp

直通電話：0774-64-1314

ファックス番号：0774-64-1305

第11回 全国大学まちづくり政策フォーラムin京田辺 日程

日数	時 間	日 程	会 場	備 考
1 日 目	平成29年2月26日（日曜日）			
	12:30 ～ 14:00	新田辺駅前からのシャトルバス(乗車自由)	乗車場所＝近鉄新田辺駅西口	バス:みどり1号、みどり2号
	14:00	全体集合	同志社ローム記念館劇場空間	各自でシャトルバス又は公共交通機関等を利用
	14:00 ～ 14:10	受付	同志社ローム記念館劇場空間	
	14:20 ～ 14:30	歓迎式	同志社ローム記念館劇場空間	・実行委員長あいさつ ・市長あいさつ
	14:30 ～ 14:50	リーダー会議(諸注意等)	同志社ローム記念館PCエリア前	
	14:50 ～ 16:50	政策提言調査研究活動(自由行動)	京田辺市内、同志社ローム記念館、情報メディア館	
	17:00 ～ 19:00	交流会	同志社ローム記念館オープنسペース	参加チーム紹介、発表順決め
	19:10 ～	新田辺駅前、京都駅、同志社大学今出川キャンパス への送迎バス	送迎場所＝新田辺駅西口、京都駅前、同志社大学今出川キャンパス	バス:同志社号
	平成29年2月27日（月曜日）			
2 日 目	9:30 ～ 12:00	政策提言調査研究活動(自由行動)	社会福祉センター、京田辺市内、同志社ローム記念館、情報メディア館	各自で公共交通機関等を利用
	昼食			
	13:00 ～ 16:00	政策提言調査研究活動(自由行動)	社会福祉センター、京田辺市内、同志社ローム記念館、情報メディア館	各自で公共交通機関等を利用
3 日 目	平成29年2月28日（火曜日）			
	8:00 ～ 9:00	新田辺駅前からのシャトルバス(乗車自由)	乗車場所＝近鉄新田辺駅西口	バス:みどり1号、みどり2号
	9:00	全体集合	同志社ローム記念館劇場空間	各自でシャトルバス又は公共交通機関等を利用
	9:10 ～ 9:20	リーダー会議(パワーポイントのデータ提出)	同志社ローム記念館PCエリア前	政策提言発表のデータ提出
	9:30 ～ 9:45	政策提言発表オープニング	同志社ローム記念館劇場空間	・実行委員長あいさつ
	9:45 ～ 12:15	各チーム政策提言発表	同志社ローム記念館劇場空間	7チーム(発表15分+質疑・移動5分) 休憩10分
	12:15 ～ 13:15	昼食(各自)		昼食は各自で用意
	13:15 ～ 14:35	各チーム政策提言発表	同志社ローム記念館劇場空間	4チーム(発表15分+質疑・移動5分)
	15:00 ～ 15:30	審査発表・講評・表彰式	同志社ローム記念館劇場空間	
	15:30	閉会・解散	同志社ローム記念館劇場空間	
15:40 ～ 16:40 新田辺駅前へのシャトルバス(乗車自由)				バス:みどり1号、みどり2号

参加者数等一覧

○参加大学及びチーム数 (五十音順)

参加大学	チーム数
京都府立大学	1 チーム
埼玉大学	1 チーム
大東文化大学	1 チーム
同志社大学	5 チーム
日本大学	2 チーム
龍谷大学	1 チーム
6 大学	11 チーム

○参加学生数、教員数

学生数	教員数
73人	7人

審査員・審査結果

(敬称略・順不同)

◎ 審査員

審査委員長 清水 陽子 関西学院大学 准教授

審査委員 片木 孝治 京都精華大学 講師

御牧 拓郎 京田辺市市政協力員連絡協議会 幹事

田宮 正雄 普賢寺ふれあいの駅

鞍掛 孝 京田辺市 副市長

◎ 審査結果

賞	チーム名、テーマ
最優秀賞	日本大学法学部福島ゼミナールBチーム 「京田辺から始まる5つかぐや秘話」
優秀賞	同志社大学真山ゼミ Aチーム 「民意をプロデュース計画」
NPO 法人政策マネジメント研究所賞	同志社大学真山ゼミ Dチーム 「地域活性化」
今川晃記念賞	同志社大学政策学部今川ゼミ 「気づき、築き合い、つながる京田辺市へ」

最優秀賞及び優秀賞チーム集合写真

最優秀賞

日本大学法学部福島ゼミナール B チーム



優秀賞

同志社大学真山ゼミ A チーム



第11回全国大学まちづくり政策フォーラムin京田辺 政策提言(発表順)

順番	大学名	チーム名	テーマ	備考
1	日本大学	日本大学法学部 福島ゼミナールAチーム	京田辺ママ就労フォーラム ～しごとり物語～	
2	同志社大学	同志社大学政策学部 今川ゼミ	気づき、築き合い、つながる京田辺市へ	今川晃記念賞
3	同志社大学	真山ゼミBチーム	5世帯組～減災計画～	
4	京都府立大学	まちづくりチーム	お年寄りの活躍する地域社会	
5	日本大学	日本大学法学部 福島ゼミナールBチーム	京田辺から始まる5つのかぐや秘話	最優秀賞
6	龍谷大学	今里ゼミ	Kyotana Better Life ～FTTで今日からべたーらいふ～	
7	埼玉大学	斎藤ゼミナール	竹活物語 ～伐採した竹の有効活用～	
8	大東文化大学	藤井ゼミ	ハローファームー就農支援における 地域復興	
9	同志社大学	真山ゼミCチーム	京アニTANABETION	
10	同志社大学	真山ゼミDチーム	地域活性化	NPO法人政策マネジメント研究所 賞
11	同志社大学	真山ゼミAチーム	民意をプロデュース計画	優秀賞

学生による政策提言発表



発表 No.1

●テ　ー　マ　　京田辺ママ就労フォーラム～しごとり物語～

●大学・チーム名　　日本大学法学部福島ゼミナール A チーム

●チーム紹介コメント

約 2 か月間、家族より長い時間を費やし議論を重ねてきました。メンバーの性格や考え方は十人十色で、そんな個性豊かなメンバーの考え方が政策に反映されていると思います。関東からの出場ですが、メンバーの心は京田辺のことでいっぱいです。私たちの考えた政策が京田辺市民のみなさんのお役に立てれば幸いです。

●チーム紹介画像



※ コメント及び画像は政策提言発表時のものです。

「京田辺ママ就労フォーラム～しごとり物語～」

日本大学法学部 福島ゼミナールAチーム

現状・課題

- ・京田辺市の働いている女性の割合は、全国、京都府に比べて低い。
- ・未婚・既婚別で比較してみると、既婚女性の働いている割合が低い。
特に、20代から40代の、母親世代の働いている割合が低く、
子供を持つことが働けない理由となっていると推測される。
- ・働いていない母親は、全国が約36%、京田辺が47%。
すぐに働きたい、子供の年齢によるが働きたい、と思っている母親は、60.4%。
- ・働けない理由として、**出産・育児、適当な仕事がない**、と答えた女性は約6割。
- ・京田辺市は、京田辺市子ども子育て支援事業計画の中で、
男女共同参画とワークライフバランスの推進を掲げている。
- ・(ヒアリングにおいて)産業振興課「特に中小企業において人手不足が深刻」

以上のことから課題を「**母親の就労率をあげること**」とした。

政策「京田辺ママ就労フォーラム～しごとり物語～」

①企業とのマッチング

母親が自分に合った企業を見つけることができる内容である。

9:00～11:00 企業の個別説明会

- ・母親は、名前、子供の年齢、持っている資格などを書いた「**竹チャンスシート**」を記入

11:00～12:00 昼休憩を兼ねて「**竹ジョブシート**」を書く時間

- ・「竹ジョブシート」の内容は、母親が自由に決められる

12:00～14:00 アピールタイム

- ・企業に「竹ジョブシート」を提出し、5分間アピール

- ・フォーラムには、京都府で行われている取り組みである、

ワークライフバランス推進企業に参加してもらう。

京田辺市内の宣言企業は、24社、認証企業は、4社あり、

これらの企業がフォーラムに参加することで、

働きたい母親は、京田辺市内に職場を見つけることができる。

②竹取物申す

・竹広場は、母親が意見を言う場である「竹取物申す」

アンケート調査と「竹に願いを」の二つ。

・**アンケート調査**は、行政と企業がそれぞれから、母親に対して

行政は、求めているデータを収集することができ、今後の活動に役立てる。

企業は、新しい商品やサービスへの意見、試供品を試してもらうなど、

本来有償で行う市場調査を無償で行える。

・**「竹に願いを」**では、母親から、行政、企業へのお願いを竹にくくりつける

例 行政に対して「街路樹を整備してほしい」、

企業に対して「学校行事に参加したいので、時間単位で有給休暇をとりたい」

希望数や優先順位をもとに、行政、企業がそれぞれ抜粋し、

広報や掲示板に目標として掲示し、達成したものから取り外すことにより、

意見反映の見える化を行う。

各アクターの役割

行政 フォーラムの場所を提供、フォーラムの運営

企業 雇用を提供、各自アンケート作成

母親 フォーラムへの参加、行政や企業それぞれに対してニーズの提供

NPO ブースでの NPO 自体の周知、NPO でのイベントにおける広報

⇒実現のためには協働の精神が必要

効果

母親 自分にあった仕事を探すことができる

行政 母親の生の声を聞くことができる

企業 自社に適した優秀な人材を探すことができる

NPO 多くの人に認知される

まとめ

母親の就労率アップ→仕事と子育ての両立⇒**住みやすいまち NO.1**へ

発表 No.2

●テーマ 気づき、築き合い、つながる京田辺市へ

●大学・チーム名 同志社大学政策学部今川ゼミ

●チーム紹介コメント

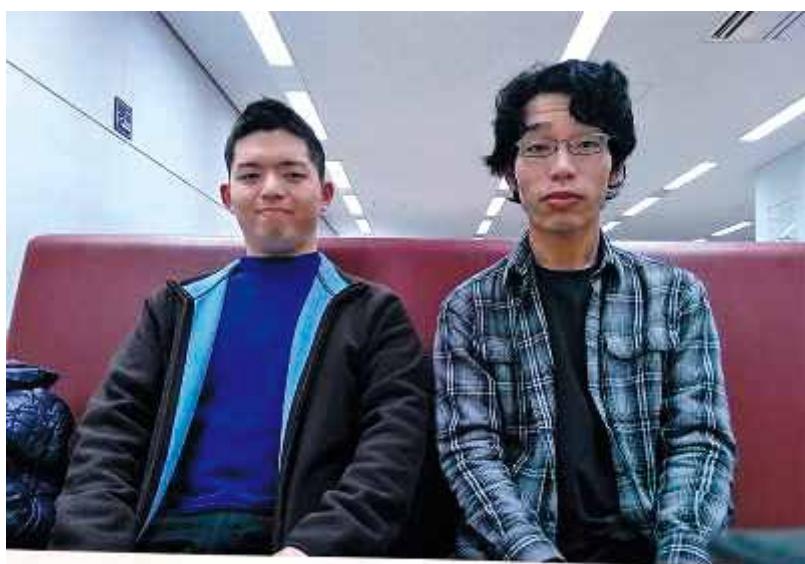
私たち今川ゼミは「地方自治、まちづくり」をテーマに活動しています。

例年とは異なり今年は有志の4回生2名での出場となりました。

少ない人数の中での調査研究活動は大変でしたが、今川ゼミらしい政策立案が出来たと思っています。

今川先生、増田先生のもとで教わった成果を、この場で存分に発揮できるよう頑張ります。

●チーム紹介画像



※ コメント及び画像は政策提言発表時のものです。

気づき、築き合い、つながる京田辺市へ

同志社大学政策学部今川ゼミ

安藤 理 東 大生

背景

●全国

- ・食物アレルギーの割合増加。

小学生の罹患率は 2013 年度で 25 人に 1 人。3 歳児時点だと 2014 年度では 6 人に 1 人。

- ・2015 年、「アレルギー疾患対策基本法」施行。

アレルギーへの対応に関し、市町村も迫られる状況となっている。

●京田辺市

- ・2016 年に、食物アレルギーをテーマとするコミュニティサークル「ばーばの手」が活動開始。

→市内住民の間で、食物アレルギーに関する問題意識が高まってきている。

- ・また、京田辺市は子育て世帯が多い。

→食物アレルギー罹患率は就学前の子供の方が多く、特に京田辺市にとって重要な課題である。

現状調査

●当事者への調査結果

食物アレルギーを持つ幼児の親への、ヒアリングや今までのアンケートをまとめた結果、

「疎外感」「周囲の無理解」「不安」を感じるとの声が集まった。

- ・地域……地域イベントで出てくる食事やお菓子などが不安、実際食べられない、等。

- ・保育園…保育時における対応が不安、等。

- ・行政……市職員の対応に知識不足を感じる、等。

→それでは、当事者の周りでの支援体制は？ 就学前児童が多く集まる場所を中心に調査。

●行政関係での調査結果

子育て支援課、健康推進課、学校環境整備課へアンケート、ヒアリング調査をそれぞれ実施。

→制度面では、一定レベルの水準で対応が行われていることが判明。

●地域での調査結果

市内 10 地区（うち 8 地区から回答）の自治会又は子ども会に、ヒアリング又はアンケートを実施。

その結果…

- ・対応している所は意外と多い。だが対応のレベルは地区によって様々。

事前対応及び広報を行っている所、当事者の申し出を受けて対応する所、親の判断に任せている所等。

- ・全体的に、アレルギーへの対応についての広報が足りていない。

当事者へのヒアリングによって、地区で事前対応が行われているにもかかわらず、周知されていない事例も。

- ・また、アレルギーの専門知識を持つ人材が不足している。

知識を持つ看護師が在住している事を把握できているのは、1 地区のみ。

現状分析・課題設定

- ・まず、当事者が周りに対し、不安感や孤立感を覚えている問題について。
→これは支援体制側の知識不足による、対応への不足が原因。
- ・そして、当事者が対応の状況や要望を言い出せない問題について。
→これは、支援体制との間で相互に意思疎通しにくい状況が存在していることが原因。そのため、支援体制は広報や相談が不足しがちになり、当事者はますます言い出せない環境に置かれてしまう。
※この問題は調査当初見つからなかったが、ヒアリングを通して浮かび上がってきた。

政策提言 1 「ともサポーアレルギー認証×マイスター制度—」

●概要

①アレルギー研修会の実施とマイスター制度の創設

主催：京田辺市 協力：NPO 講師：市内のアレルギー専門医等

- ・1回受講した市民に対しては通常マイスターの資格を与える
- ・受講回数が規定回数超えると、ゴールドマイスターの資格を与える

②マイスターがいるイベント・施設等におけるアレルギー対応マークの付与

- ・駐在するマイスターのランクに応じて、通常マークかゴールドマークを付与
- ・地域イベントのチラシや、保育園のHP、京田辺市内の店舗等に使用可能

●効果

- ・地域におけるイベント、施設等のアレルギー対応状況の可視化
- ・アレルギーの知識を持つ人、理解している人の増加
- ・気軽にアレルギーについての相談が出来る環境構築
- ・公による認証制度による安心感、信頼性の構築

政策提言 2 「お気軽、掲示板！」

●概要

- ・自治会ごとに、質問・回答し合える電子掲示板を設置
- ・質問は各自治会の住民が行い、回答は自治会役員及びマイスター所持者が行う
- ・質問し、回答し合うことを通じ、掲示板を「気づきの場」にする

●効果

- ・自治会へ気軽に話せる手段がない、わからない現状を改善
- ・掲示板への気軽な書き込みで、話し合いの簡易化
- ・新たな地域課題の発見にもつながる可能性

●政策1、2による波及効果

- ・自治体政策として実施することによる一般市民への認知度、理解度向上
- ・京田辺発の政策としての注目度
- ・安心して子育てが出来るまちとしての、京田辺のネームバリュー向上

発表 No.3

● テーマ 5世帯組～減災計画～

● 大学・チーム名 同志社大学真山ゼミ B チーム

● チーム紹介コメント

私たちは、防災・減災をもとに集まった個性の強い8人チームです。本日は留学のため1人おりませんが、出場にあたり8人で力を合わせて準備を行ってきました。個性のベクトルがみんな違うので苦労した部分はありましたが、愉快なメンバーであり和気あいあいとしております。そんな私たちの政策提言をお聞きください！

● チーム紹介画像



※ コメント及び画像は政策提言発表時のものです。

5世帯組～減災計画～

同志社大学 政策学部 真山ゼミBチーム
(今村・島田・西井・的場・玉川・竹林・田村・谷川)

問題提起

21世紀現在、南海トラフ地震がいつ発生してもおかしくない現状である。京田辺市における南海トラフ地震発生時の最大予測震度数は震度6強、死者数20名、負傷者数290名、重傷者数40名、要救助者数100名とされている。しかしながら、京田辺市民の防災意識は低く、地震に対する備えがあまりなされていない。

災害は忘れたことにやって来ると言われているが、「災害は知らないところにやって来る」のだ。「いざ」という時の備えの仕組みがなければ被害が大きくなると言えるだろう。

1. 課題設定

被害拡大を防ぐために

- ① 京田辺市民の防災意識向上
- ② 地震時の2次災害防止

が必要だと考えた。

2. 政策提言

阪神淡路大震災時、救急車による救助数は約2割である。救助された人のほとんどが近所の人などによるものであった。そのため共助に視点を置いた政策提言を行う。またそれに伴いCSW（コミュニティソーシャルワーカー）に着目した政策展開を行う。

政策提言：5世帯組

5世帯程度の近所でグループを作り、普段から交流を行うことで2次災害を防ぐ。

町内会の枠組みを超えた仕組み。

＜災害時のメリット＞

- ・迅速な生存確認が可能
- ・助け合うことで生存率が高まる

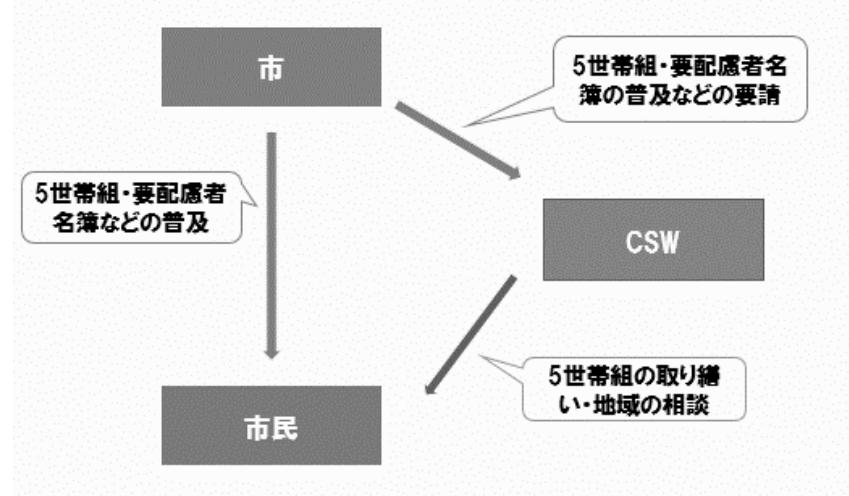
導入背景：京田辺市の地域特色にある

- ・地域間交流がある→他地域より導入しやすい
 - ・新旧住民との温度差問題が出始めている
 - ・高齢化
- 解決すればより強固なコミュニティが築ける

5世帯組実施の流れ

- ・要配慮者名簿も同時普及させることで交流の機会創出、防災意識向上を狙う
- 要配慮者名簿の企画書作成は住民自身が行うから

- ・CSW が第三者として地域交流を潤滑にさせる



◎あくまで市民自身のボランタリー精神や自主性に任せたものにするために「地域力」が大切である。

円滑に進むように

- ・スポーツ大会や清掃活動、防災意識向上のための防災グッズ作り等のイベント
 - ・CSW による訪問
- ※イベントを行うためにも CSW の存在が欠かせない。CSW のアプローチの上に成り立つ。

3. まとめ

いつ何時地震が発生してもおかしくないのにも関わらず、京田辺市民は防災意識が低い。地震発生時に被害にあうのは市民自身であり、市民同士で助け合う共助の仕組みが 2 次災害を防ぐ鍵となる。そこで京田辺市の地域特色を生かした「5 世帯組」を導入することで減災につながると考える。市が CSW を、CSW が地域を、地域が 5 世帯組を、という連携した仕組みをとることで、5 世帯組がより現実可能なものとなる。

地域力を基盤とした 5 世帯組は助け合い、つまり共助の仕組みをつくるものであり、それが減災へつながるのではないだろうか。

発表 No.4

●テーマ お年寄りの活躍する地域社会

●大学・チーム名 京都府立大学まちづくりチーム

●チーム紹介コメント

わたしたちは京都府立大学の公共政策学部に所属しています。
「公共政策」とはその名の通り、公共のための政策を指します。
どういった政策をどのように実施し、その政策がどれだけ公共のためになる
のか、といったことを日々学んでおります。
本日はこのような場に参加させていただき、ありがとうございます。

●チーム紹介画像



※ コメント及び画像は政策提言発表時のものです。

写ばあば・じいじ隊

～地域のきずな・福祉・魅力発信～

京都府立大学 まちづくりチーム
今井、水相、加藤、鬼塚、坂本

1、京田辺市の現状

現在の京田辺市の人口総数は 68,203 人であり、人口は今後も増加する見通しである。また、それに伴い高齢者人口も増加が予想される。

2、今後予想される課題

京田辺市の現状から今後予想される課題は「地域の担い手の不足が深刻化」「地域との関りがなくなる」「社会から孤立し、生きがいの低下」の三つが挙げられる。

京田辺市にある既存の自治体は 24 (集合住宅のものを含むと 49) であり、各自治体に「市政協力員」をおいていることから、自治体と連携がとりやすい土壤が京田辺市にはあると考えられる。

3、政策提言

そこで、増加する高齢者は地域の担い手としてはピッタリではないだろうか。しかしながら、高齢者には重労働は厳しい。そこで、そんな高齢者にピッタリなツールである「写真」で、地域の担い手として活躍してもらうのである。

「写ばあば・じいじ隊」

これは、町内会ごとに一つの部門として結成する。そして、情報発信力があり、お手軽にできる、今世間で流行の「写真」を撮り、SNS を利用し、地域の魅力発信を行うというものである。

地域の魅力発信というのは、京田辺市外の人々へ、つまり「外への発信」だけではなく、京田辺市内の人々へ、つまり「内への発信」も両方行っていく。

活動頻度は三パターンあり、まず一週間に一度、町内の魅力を Facebook で発信する。これは隊員が交代で更新する。毎週交代で行うことにより、続けやすく、ほかの参加者たちとの交流が図れるのである。また、SNS の中でも LINE を除いた中では Facebook が最もユーザーが多く、たくさんの人々に伝えられると考え、ここでは Facebook を利用する。

次に二つ目は、三か月に一度のコンテストを区内で開催するのである。このコンテストは誰でも参加可能であり、公民館で開催する。審査員は行政の方に担ってもらい、審査基準としては、上手な写真ではなく、より魅力がいっぱい詰まっている写真を撮れたかで判断する。

最後に三つ目は、一年に二回、区ごとに競い、市のナンバーワンを決める BIG コンテストを開催する。区ごとに、区の中で一位だった写真を出し合う。景品は京田辺市が同市の魅力が詰められた商品を提供することとする。

また、高齢者にスマートフォンの使い方を知ってもらうために、「大学生によるスマートフォン講座」を行う。これは 500 円で、大学生が基本のみのレクチャーを行うというものである。大学生はボランティアではなく、報酬もあるためアルバイト感覚で参加でき、高齢者にとってはスマートフォンの使い方を学べるだけではなく、大学生との交流もできるというわけである。

昨年、同志社大学京田辺キャンパスで行われた大学生への意識調査の結果として、地域の人との交流は大切であると思いながらも、交流はあまりできていないという声が多数であった。また、JR 京田辺駅周辺の高齢者へのアンケート調査でも、若い人との交流に興味はあるが、交流は多くないという結果が出た。これらの結果より、スマートフォンを使えるようになるだけではなく、地域間の交流も行えるスマートフォン講座を提案する。

4、期待される効果

期待される効果を四つの面から考えた。

「福祉」

- ・高齢者の生きがい創出
- ・外を出歩くことによる健康増進
- ・高齢者間でのコミュニティ創出

「地域の魅力」

- ・今まで知らなかつたものの発見
- ・発見したい人にも発信するツールを
- ・対外的にも対内的にも効果がある

「地域内のつながり」

- ・写真というツールをきっかけに交流
- ・SNS を利用したつながり
- ・情報交換により、広い地域と交流

「移住・定住促進」

- ・この街に住みたいと思わせる情報発信
- ・住みやすさのアピール
- ・SNS を利用することで対外的にも発信

発表 No.5

●テ　ー　マ　　京田辺から始まる5つのかぐや秘話

●大学・チーム名　　日本大学法学部福島ゼミナールBチーム

●チーム紹介コメント

こんにちは。

私達は日本大学法学部福島ゼミナールBチームです。

私達のチームは個性豊かなメンバーで、和気あいあいとした雰囲気で話し合いをしてきました。

話し合いを重ねていく中で、行き詰まったり壁にぶつかることが何度もあり大変でしたが、チームの皆で一生懸命、政策を考えてきました。

ぜひ私たちの政策を聞いて下さい。

●チーム紹介画像



※ コメント及び画像は政策提言発表時のものです。

京田辺から始まる 5 つかぐや秘話

日本大学法学部 福島ゼミナール B チーム

現状・課題

京都府の観光入込調査によると、京田辺市では平成 21 年以降観光客が激減し、その後も回復せず低迷が続いている。

方針

・「京都観光エリア」の地位獲得

京都郊外の観光地である伏見や嵐山、鞍馬、延暦寺、宇治等は、京都中心部から離れているが、毎年多くの観光客が訪れている。これらの地域はメディアによって京都観光のエリアの一つとして取り沙汰され、一般に観光という観点から京都圏と認識されている。つまり、京田辺市も観光客の多くに「京都観光エリア」という認識を持たせることができれば、観光客の大量集客が見込めるのではないか。

・ストーリー性のある観光地づくり

では、このような「京都観光エリア」に入るためにはどうしたら良いのか？その答えは「ストーリー性のある観光地づくり」にあると考えられる。人々はしばしば、偉人のゆかりの地や童話の舞台を訪れ、空気を体感し、その人物や物語に思いを馳せる。例えば、鞍馬は牛若丸の修行の地として有名で、伏見は坂本竜馬ゆかりの地として知られる。この 2 つの観光地では牛若丸や竜馬の様々なエピソードの舞台を見るため、毎年多くの観光客が訪れる。このことからも、観光客はストーリー性のある観光地に魅力を感じ、訪れることが分かる。

私達はそこでかぐや姫に注目した。竹取物語の舞台が京田辺市であるという学説があるが、ほとんど知られていない。市民アンケートを行ったところ、「京田辺市をかぐや姫ゆかりの地として知っていますか」という質問に対して、知っていると答えた人は、市外では 0%、市内でも 2% にしか及ばなかった。一方で、市民に対して京田辺市がかぐや姫ゆかりの地だと説明したうえで「京田辺市をかぐや姫ゆかりの地として PR したいですか」と質問したところ、80% の賛成を得られた。また、映画「かぐや姫の物語」はアカデミー賞にノミネートされるなど国内外ともに評価が高く、かぐや姫は PR の材料として有効であると言える。以上より、京田辺市をかぐや姫のゆかりの地と PR し、竹取物語の世界観を体感し、これを学ぶことが出来る政策を私達は提言した。

政策提言：「京田辺から始まる 5 つかぐや秘話」

【ターゲット】外国人・文学に興味のある人・京都市だけでは物足りない人

【政策内容】

この政策は、①巻物マップ、②ツアーの 2 つの施策によって構成されている。

① 巾物マップ

竹取物語といえば竹がメインアイテムとなる。そこで京田辺市内にある竹を利用し、竹筒を制作する。また、竹筒の内側にかぐや姫のイラストを描くことによって、観光客に「京田辺=かぐや姫」のイメージを定着させる。さらに観光が終わった後も花瓶などとして使用できるように工夫をする。この竹筒には巾物状の市内観光マップを入れ、このマップを用いて観光客に市内を巡ってもらう。マップには観光案内のほかに、竹取物語のあらすじを載せ、竹取物語への理解を深めてもらう。

- 《ねらい》
- ・日本らしさ、京都らしさを表現
 - ・竹取物語の昔話らしさを表現
 - ・かぐや姫の物語を知ってもらうことが出来る

② ツアー

竹取物語はその場面展開によって誕生・成長・求婚・告白・昇天の 5 つの場面に分けられる。このそれぞれの場面にゆかりのある京田辺市内の観光地を巡らせるのがこの観光ツアーである。

- (1) 誕生…月読神社。周囲の竹藪がかぐや姫の誕生の地であったと言われている。
- (2) 成長…甘南備寺。かぐや姫の名づけはこの寺で行われたと言われている。
- (3) 求婚…澤井家住宅。貴公子の 1 人は幼い頃をこの周囲で過ごしたと言われている。
- (4) 告白…佐牙神社。翁やかぐや姫の屋敷はこの近くにあったと言われている。
- (5) 升天…寿宝寺。寺に伝わる羽衣伝説は、かぐや姫の羽衣だったと言われている。

以上の 5 つの観光地をそれぞれ巡ると、それぞれの場面をデザインしたスタンプを巾物マップに押すことができ、5 つそろえると竹取物語が完成する。

- 《ねらい》
- ・観光客に京田辺市の様々な場所を知ってもらうこと
 - ・竹取物語の内容を知ってもらうこと

効果

- ・市民：郷土愛を持ち、文化教育の向上
- ・行政：京田辺市の知名度の向上
- ・企業：観光客による収入増加

このように、様々なアクターに利益をもたらすことができ、市民、行政、企業の協働により観光客増加、観光業の収益の増加を図る。

発表 No.6

●チーム名 Kyotana Better Life
～FTTで今日からべたーらいふ～

●大学・チーム名 龍谷大学今里ゼミ

●チーム紹介コメント

私たち今里ゼミは、龍谷大学政策学部に所属しています。

私たちは京丹後市をフィールドとして活動しており、田植え・稲刈りや文化祭などに携わりながら、住民の方と交流しながらまちづくりに励んでいます。行政と住民、両方の立場から政策を考えられるような柔軟な視点を持つことを目標にしています。

よろしくお願いします。

●チーム紹介画像



※ コメント及び画像は政策提言発表時のものです。

Kyotana Better Life ～FTTで今日からべたーらいふ～

龍谷大学 政策学部 今里ゼミ

(植木、上田、片山、鎌田、黒田、下農、
白井、杉本、杉本、富山、水野、道井)

1. 問題提起

日本では高度経済成長期に、大量のニュータウンが開発され、一斉に同世代の人々が入居した。このため、建設から数十年たった現在、オールドニュータウンの問題が各地で起こっている。京田辺市でも、同志社山手や山手西といった住宅開発が終了すると、人口が減少していくことが予測されている。

⇒京田辺市にとってオールドニュータウンの問題は、決して他人事でない。

2. 課題設定

- ・高齢化
- ・コミュニティの希薄化
- ・社会的孤立
- ・孤独死、犯罪の増加

⇒そこで重要なのが『コミュニティ』であると考えた。

3. 政策提言

目指すべき姿は、地域全体でネットワークを作ることにより、孤独死の防止、防犯や子育て支援などの問題の解決につなげることである。

STEP1 F:ふれあい

安心していきいきと暮らせる住みよい社会にするためには、ふれあいが必要である。そのための場づくりとして、自治会単位で共生型ホームを設置する。

共生型ホームは地域の普段使用されていない空き家や有志の個人の家を活用し、お茶会などを通して高齢者や親子、様々な人が気軽に立ち寄れる場とする。

⇒人と人のつながりのきっかけを作る

また活動の幅を広げるために、校区単位での共生ホームをつくることにより、小さなつながりをさらなる地域のつながりに発展させる。

STEP2 T:体験

STEP1 では、自治会レベルで活動していたが、STEP2 では範囲を連合自治会に広げもっと地域の仲を親密にするために体験教室を実施する。

ex) 農業体験 料理教室 パソコン教室 スマートフォン教室

周辺の田園集落の耕作放棄地を利用した農業体験や、その時、収穫した野菜や地元の食材を使った料理教室を行うことによって、地産地消や世代間交流のきっかけになる。

STEP3 T:助け合い

子育て世代や学生が交流することにより、子育て支援などにつながり、また官・民・学の横の連携と多世代の縦の連携を組み合わせることによって、行政などに積極的に意見を言う機会を創出する。

運営方法

町内で共生型ホームを運営する自治会が集まって、連合自治会を構成する。そしてそこに、NPO・企業・学生が加わって、ベターライフ協議会を組織し、その協議会が共生型ホームを運営する。学生やNPOが計画、運営することで、新しいアイデアにつながり、行政からの支援を受けることで資金的にも余裕が生まれ、活動の幅も広がると考える。

運営資金は自主財源・一休ポイント・行政からの一括補助を考えている。

(一休ポイントとは…京田辺市で使用できる地域通貨。ボランティアをしたり、体験教室などを主催したりするとポイントをもらうことができる。また、そのポイントを使用して、教室を受講したり、農産物を購入したりできる。)

4. まとめ

FTT 作戦を通じて、目的であった地域社会を実現することができるを考える。また、このような活動をしている京田辺市に将来への安心感、愛着や誇りを持つこともできると考え、京田辺を離れず、これからもずっと住み続けたいと思う人が増えれば良いなと思う。

発表 No.7

●テーマ 竹活物語～伐採した竹の有効活用～

●大学・チーム名 埼玉大学齋藤ゼミナール

●チーム紹介コメント

私たち、埼玉大学齋藤ゼミナールは政策提言をメインに活動しています。夏には北海道、冬には京都に向かい合宿を行う、非常に活発なゼミです。今回の政策提言では、京田辺市の竹の再活用に着目した発表を行います。よろしくお願いします。

●チーム紹介画像



※ コメント及び画像は政策提言発表時のものです。

竹活物語～伐採した竹の有効活用～

埼玉大学経済学部法と公共政策メジャー：齋藤ゼミナール

(石川・尾武・小林・佐々木・莊・武井・前田)

I. 問題提起

全国的に放置竹林への対策が求められており、本市においても同様である。市内の山林総面積のうちの民有林（1250ha）に占める竹林の割合は五分の一と、比較的広い面積が竹林となっている。ところが、市は竹林のほとんどが民有であるため、竹林所有者及びその実態を把握していない。

その上、放置竹林による弊害は多い。例えば、道路への倒竹による交通障害、地下茎の隣地侵入といった近隣トラブル、山林・農地への日照障害、不法投棄などがある。このうち、本市でも不法投棄が問題とされ、一部に監視カメラの設置や看板の設置等の対策がなされている。

その一方で、竹林を地域資源と捉えてもおり、かぐや姫伝説の一つの地域でもあることや二月堂への竹送りなど、竹を地域イメージと捉え、観光につなげようという動きもある。

それゆえ、本市において放置竹林の管理が不可欠と考える。

II. 課題設定

第1に、民有の放置竹林ないし管理された竹林の全てを「公共財」と位置づけ、放置竹林については適正な管理を進め、不法投棄等を抑制し、市全体として「竹のまち」としての景観質を高める。

第2に、放置竹林の管理によって発生する間伐竹を元に竹パウダーを土壤改良剤として、「京田辺市すてきなまちなみ支援制度」の中で活用することで、「協働による緑地等管理や美化活動の促進」を図る。

第3に、土壤改良剤としての竹パウダーの市場性を確保するために、類似のバーミキュライトとの効能・機能、生産コストをそれぞれ竹パウダーと比較、利益を生み出すまでのコストの割り出しとその方法を明らかにし、既存組織が竹パウダーを生産することで経済的効果の向上を図る。

III. 政策提言

① 公共財としての竹林へ認識転換

竹林には二つの側面がある。一つは、竹林への不法投棄対策が進められ、行政活動の対象となっていることである。つまり、地域問題となっている。もう一つは、竹林が地域イ

イメージを形成し、それが観光面においての地域資源となっていることである。しかし、竹林は民有であることから、市はその実態を把握していない。それゆえ、地域問題の解決、地域資源の豊富化のいずれにおいても政策対応が後手になりやすい状況に置かれている。そこで、民有の竹林といえども、竹林を公共財と捉え直す、つまりは価値転換を図ることで、不法投棄の予防、景観質の向上を一体的に進めることが第1の提案である。

②市既存事業に貢献する事業

市は「緑豊かなエコタウン推進プロジェクト」の手段として「協働による緑地等管理や美化活動の促進」および「豊かな自然に触れ心癒される空間整備」を進めており、これに合致する事業として、竹パウダーブルクリを提案することが第2の提案である。具体的には、「協働による緑地等管理や美化活動の促進」の中の一つである「京田辺市すてきなまちなみ支援制度」で竹パウダーを活用してもらうことを想定している。これらによって、市の竹のイメージとともにエコなまちづくりのイメージアップにもつながると考えられる。

竹パウダーを生産する方法としては、一つは竹林所有者が竹粉碎機を使用し、パウダー加工まで行い、さらにそれらを製品化し販売する方法である。もう一つは「普賢寺地域農を考える会」が加工された竹パウダーをまとめて買い取り、製品化し、販売する方法である。場合によっては、竹林所有者からの要請を受けて「普賢寺地域農を考える会」が伐採を受けることも想定している。

③既存団体の経済効果の向上

「普賢寺地域農を考える会」がすでに所有する竹粉碎機と京田辺市が新たに購入する竹粉碎機を竹林所有者へ無料で貸し出すことで、竹林所有者自身が柔軟に竹パウダーを生産することや現地での作業による効率化を可能にする。あるいは、「普賢寺地域農を考える会」に市の新竹粉碎機を貸し出すことで、会の活動を拡大させる。

竹パウダーとバーミキュライトの効能・機能はほとんど同じであるため、バーミキュライトよりいかにコストを下げるかが、経済効果をあげる上で重要な点である。間伐した場所で粉碎することで搬出・運搬コストを減らし、全体のコストを50円から34円までに下げるという、3割強のコストの削減が可能である。これは十分に市場性が高いコストと言える。

IV. まとめ

本提案は竹林管理、竹パウダーの加工・販売を行い、景観質の向上・不法投棄の抑制と土壤質の改善などの効果を得ることができる。この結果、「緑豊かなエコタウン推進プロジェクト」で目指しているような市となり、京田辺市のイメージアップにつながる。そして京田辺市のエコタウンとしての認知度アップが期待できる。

発表 No.8

●テーマ ハローファームー就農支援における地域復興

●大学・チーム名 大東文化大学藤井ゼミ

●チーム紹介コメント

大東文化大学チーム藤井です。我々は京田辺市の自然共存エリアの今後の維持と活用についての政策案について提案します。

市街地の発展や産業の発展が著しい京田辺市において次に大事なこと、それは自然共存エリアへの意識ではないでしょうか。

我々はそんな自然共存エリアの維持と活用についての政策を考えてきました。

●チーム紹介画像



※ コメント及び画像は政策提言発表時のものです。

就農支援における地域復興

大東文化大学 チーム藤井

① 問題提起

現在京田辺市は自然共生ゾーン、市街地ゾーン、産業ゾーンの三つから構成されている。近年では産業ゾーンに大きな発展が見え、それに伴って市街地ゾーンにも発展が見え始めている。しかし自然共生ゾーンだけが発展に偏りがあることを現地での予備調査で実感した。この自然共生ゾーンの打田地区というところに私たちは注目した。打田地区周辺には沢山の田畠があり京田辺市の特産物であるナスなどが栽培されている。

一見「日本の伝統風景」を思わせるものがあるこの地域だが、現地でのヒアリングの結果、高齢化がかなり進んでおり、人口 243 人のうち 193 人が 60 歳以上であることがわかった。それと同時に耕作放棄地の増加と後継者不足が進行しているということが判明した。今後のこれらの進行を防ぐために何かしらの手段をすぐにでも講じる必要があると感じた。

② 政策提言

私たちが提言する政策は「ハローファームプラン」である。これはハローワークと田畠の意味を持つ farm をあわせた造語であり、これが成功すれば(1)耕作放棄地の有効活用(2)後継者不足問題の解決(3)生産物のブランド化による農家の収入向上が見込める。

プランの全体像は以下の通りだ。

- ・各地区の農家組合を核とした運営組織の結成(後援として農政課についてもらう)。
- ・農業に興味がある定年退職者、早期退職者、ニートなどから就農希望者を募集し全国規模で講演会を実施し、就農までの道筋を説明。

ここから先は上記の説明で興味を更に持った人が進む段階。

○第一段階 農業知識の習得

就農支援を実際に行っている NPO 支援を受ける。

※例 NPO 法人「農スクール」

…神奈川県藤沢市を活動拠点としており、生活保護受給者などの若者を中心に“農”を通じた様々なプログラムを通じて、やりがい、自己肯定感、仕事観を得ながら、基礎的な農業のイロハを学ぶことで、農業界への就農機会を生みだしていく取り組みを行っている。実際に藤沢市に行き学ぶ形のものや藤沢市から講師を呼ぶ形のもの、さらに藤沢市に人員を派遣しトレーナーとして育成させ、その人による講義をそれぞれの地で行える形のものの三種類がありニーズや地域事情に応じたものを選択できる。

また、過去の実績などから、ある種の専門学校を卒業したことと同様に捉えられている。

○第二段階 実地研修

第一段階で農業知識をつけた人に実際に京田辺市で実地研修を行ってもらう。

実地研修は、あらかじめ協力を得た農家と共同経営という形で約一年間就農し、技術者

の育成や農家との信頼関係の醸成を図る。また、ここでは第一段階で得た基礎知識の応用などを学んでもらう。共同経営の後、既存の農家から自立できると判断されれば、農家としての独り立ちが可能となり、最終段階の就農における農地の売買へと進む。

○第三段階 就農の実現

農地の売買には原則的に買い手が農家であることや、農業委員会の許可など厳しいルールがある。しかし、第一段階、第二段階を経ることで農業委員会からの許可を得やすくなる。さらに、第二段階での農家との信頼関係の醸成により農地を安く、もしくは無料で習得することが可能となり、農業が営めるようになる。

この三つの段階により就農が実現するが、初めは収入が安定しないと思われるため、運営組織からの金銭面での補助が必要となる。ではその資金はどこから捻出するか……

③ 資金捻出

ここで私たちが提案するのが「クラウドファンディング」という資金集めの方法だ。クラウドファンディングとは群衆という意味の「クラウド」、資金調達という意味の「ファンディング」を合わせた造語であり、起業家やクリエーターが製品やサービスを開発する際の費用を集めるために、インターネットを利用し世界中から出資を募ることを指す。出資の種類はリターン無しの寄付型、金銭的なリターンがある金融型、物品や権利を購入する購入型があり、日本では特に購入型が普及している。

過去のクラウドファンディングの成功例の一つに「日本のみんなで、アメリカの人に日本酒をおごろう！そして日本酒を世界に広げよう」という企画があり、これは「日本酒を世界に広げる」という目的達成のために、アメリカのニューヨークとカリフォルニアでお披露目会をしようという企画だ。結果として目標金額の 200 万円を上回る約 213 万円の寄付が集まった。

このように日本産のものを世界に広める運動は高い支持を得ることができる。

今回の就農支援でも生産物を京野菜としてブランド化し、世界にアピールしようなどのキャッチコピーをつければ資金は集めやすくなるだろう、実際フランスなどでは、京野菜を食べるツアーが組まれるほど、世界でも京野菜は人気なのだ。出資者への謝礼として京田辺市に招待し、京野菜を食べる民泊ツアーなど計画するのもいいだろう。

④ まとめ

今回の政策を進めるためには、土地の圃場整備などが不可欠になり行政の協力が必要となる。また、即効性が低く、時間をかけて行う政策になると考えられるが、将来的に大きな効果が見込めるものだと考え、自信を持って提案する。

発表 No.9

●チーム名 京アニ TANABETION

●大学・チーム名 同志社大学真山ゼミCチーム

●チーム紹介コメント

私たちは同志社大学真山ゼミ C チームです。

男子一人女子七人という男女比ですが、リーダーは女子に負けず引っ張ってきました。

みんな忙しく集まれる機会が少ないといった苦労もあり、投げ出したくなる時もありましたが、なんとかこのフォーラムにむけて頑張ってきました！どうぞ宜しくお願ひします！

●チーム紹介画像



※ コメント及び画像は政策提言発表時のものです。

京アニ TANABETION

同志社大学 真山ゼミ C チーム

(清久・佐藤・田平・山本・落合・山口・室留・佐藤)

1. 問題提起

京田辺市は同志社大学があり若者が多く、自然豊かである。さらに京都府の財政力指数ランキングによると、京田辺市は、京都府で財政力指数が 5 位となっている。これは 4 位である京都市に次ぐ結果であり、京田辺市はさほど財政難ではないと予想できる。



京田辺市の観光客数は多いとは言えず、平成 26 年の観光入込客数は約 21 万人である。それに対して京田辺市の隣の町である井手町の平成 26 年の観光入込客数は約 35 万人となっている。京都市という大都市から離れた場所で隣り合っている市町村にも関わらず、京田辺市と井手町を比較すると、約 14 万人の差があり、京田辺市の観光入込客数は少なくなっている。

京田辺市の良いところが伝わっていないだけなのでは…

2. 課題設定

京田辺市の観光を発展させるためには

- ①若者が多く、自然が豊かという特徴をどのように生かすか。
- ②どのようにすればより多くの人に京田辺の良いところが伝わるか。

3. 政策提言

京アニ TANABETION

…京都アニメーション×京田辺市×INNOVATION

これは大手アニメーション制作会社である京都アニメーションと京田辺市がタイアップし、京田辺市を舞台としたアニメを作るという革新的な政策である。

①なぜアニメなのか。

私たちは、京田辺市には若者が多く、その若者の発信力は絶大であるということに着目した。近年、若い世代でアニメの人気が急上昇しており、18歳～24歳の若者の間で好きなテレビ番組を調査したところ、2005年、24%がアニメを支持し、同じ調査を2015年に行ったところ、45%がアニメを好きだというデータを得ることができた。さらに京田辺市をアニメの舞台にすることにより、京田辺市自体に興味を持ってもらうことができ、今まで知られていなかった京田辺市の良いところを発信することができる。よって京田辺市の観光にアニメを選んだ。

②京都アニメーションのメリット

まず挙げられるのは、アニメがヒットしたら利益を得られること。さらに、地域密着企業であるということをアピールすることができる。そして京田辺市と協力するため、製作費を抑えることができる。

③具体的な政策

京都アニメーションは一般から小説を募集し、制作会社がアニメ化するという京都アニメーション大賞を主催している。この京アニ大賞を通して、新しく「京田辺市コラボ部門」を創設し、京田辺市を舞台としたアニメを募集する。制作会社と市町村とのコラボというのは前例がなく初めての試みであり、京都アニメーションと京田辺市の初のタイアップという話題性や、けいおん！などのヒット作を生み出していることから注目を集めることができると考えた。資金調達には、クラウドファンディングを採用することにより、京アニと京田辺市の負担を軽減できると考えた。アニメがヒットした後の政策として、京田辺市が全面的にバックアップして一休寺や山城大橋といった京田辺市の名所をスタンプラリーの場所としたり、キャラクターパネルを置き、撮影スポット化したりすることで京田辺市の観光地化を図ろうと考えている。

4. まとめ

アニメというのは、人々の注目を集め、経済効果を生み、市の活性化につながる。京田辺市には若い世代の人が多く住んでいるため、若い世代に影響力のあるアニメを用いて、本市を聖地化させることにより、本市の魅力を知ってもらえると考えている。よって私たちはアニメを京田辺市の観光に活かす手段として推奨する。

発表 No.10

●チーム名 地域活性化

●大学・チーム名 同志社大学真山ゼミDチーム

●チーム紹介コメント

話し合いでは笑いが度々起こり、明るい雰囲気でしたが、やるときはやるといったメリハリをつけて取り組みました。

過去、この京田辺フォーラムにて真山ゼミは好成績をおさめているという真山先生からの静かなるプレッシャーがあったお陰で、私たち6名の目標は「賞をとる」に決まり、一致団結して頑張りました。

●チーム紹介画像



※ コメント及び画像は政策提言発表時のものです。

年の差コン

～健康への架け橋～

同志社大学政策学部
真山ゼミ D チーム

☆京田辺市の特徴：学生が多く、高齢化が進んだまち
玉露等の特産物をもち、農業の点において魅力を持つ



しかし…
その魅力を生かしきれていない

【問題提起】

① 京田辺市の農業の現状

京田辺市の特産物：玉露・茄子・タケノコ・エビイモ等
以上の農産物は生産数も多いが、京田辺市民の認知度が低い

② 京田辺市と全国における人口の割合

京田辺市の人口の特色：同志社大学がある影響で 20～24 歳の人口割合が全国より
高い

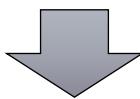
全国的な人口問題：高齢化が進み、孤独死も増加している
→この影響は京田辺市も受けている

③ 京田辺市と同志社大学の連携

同志社大学では、2005 年に京田辺地域連携推進室を設置し、京田辺市（他に精華町・木津川市など）との連携事業を多く実施。
平成 27 年 8 月現在、その数は 118 個であり、その事業内訳は、教育分野・まちづくりが多数を占める。そのような事業の中で、学生と高齢者が関わるような機会を作るものはほとんどない。

全国的に、高齢者が異世代と関わる機会をもちたいというデータが存在する。

① ② ③の現状を反映した施策とは？



『年の差コン』

〈内容〉

役職や関係にとらわれない“異世代の友達“を作ることをテーマに、交流イベントを行う。

〈詳細〉

流れ：大学生～シニア世代を募集→異世代同士の会話ができるグループ分け
→京田辺の食材を堪能しながら会話をたのしむ

場所：空き店舗を利用

運営方法

自治体	学生バイト
広報活動（地元広報誌等）	広報活動、SNSの運営
地元企業等との交渉・仲介	当日の活動サポート
空き店舗の確保、設備投資	

【得られる効果・見通し】

① 京田辺農業の発展

京田辺産の農産物を使い、地元の食材を再認識

また、イベントが拡大されれば、生産の需要も高まり、生産力向上につながる

② 高齢者と若い世代の交流が図れる

イベントを開催することで、普段ではとれないコミュニケーションをとることが可能
→違う世代の考え方を知り、地域について深く知ることができる

高齢者の孤独の解消や多様な世代の結びつきを強める

発表 No.1 1

●テ　ー　マ　　民意をプロデュース計画

●大学・チーム名　　同志社大学真山ゼミ A チーム

●チーム紹介コメント

学生の皆さん、京田辺市に興味を持っていますか？

京田辺市に住む皆さん、身近な学生と関わりを持っていますか？

私たちの政策提言は「地域の人と学生が関わるまちづくり」です。

地域の関わりが薄れている今、どうすれば困ったときに助け合えるご近所付き合いができるのでしょうか。

学生の視点から「関わり方」を考えました。

●チーム紹介画像



※ コメント及び画像は政策提言発表時のものです。

民意をプロデュース計画

同志社大学真山ゼミ A チーム

(植村・馬渕・宮嶋・山崎・藤家・藤田・後藤)

1. 問題提起

京田辺市では、毎年政策フォーラムが行われており、今回で 11 回目となりました。今まで、素晴らしい政策が学生たちによってたくさん生み出されてきましたが、実際に京田辺市で実施された政策は限りなく少ないので現状です。なぜ、そうなってしまうのか、それは、財政面であったり、実現性が低い案だったりと様々な問題があるのだと思われますが、それらは、簡単にいうと民意を反映できていないという言葉に尽きると思います。つまり、私たちは、京田辺市は民意を反映できていないのではないかという結論に至りました。

2. 課題設定

京田辺市の民意を反映するために・・・

- ① 市民の意見を聞けるような場所を用意する。
- ② 市民の力だけでは出来ないようなことをサポートする場所や人を準備する。

3. 政策提言

私たちが考えたのは・・・

民意をプロデュース計画！！

＜簡単な内容＞

- ① 市民の政策フォーラムを行う。
- ② 政策フォーラムで選ばれたものを同志社大学のプロジェクト科目として取り入れてもらう。
- ③ 市民と大学生がプロジェクト科目を通して、協力して京田辺市の問題を解決したり、地域の活性化をできるようにする。

＜具体的な内容＞

まず、市民の政策フォーラムについて説明していきます。これは、今回、私たちが参加させていただいた全国大学政策フォーラムの市民版を行おうということです。なぜ、

市民が行うのか、それは、実際に京田辺市に住んでいる市民だからこそわかる問題があると考えたからです。さらに、市民は自分たちの住む町なので、当事者意識をもってしつかり考えられるはずです。

次に、プロジェクト科目の説明をしていきます。先ほどの市民の政策フォーラムで市民の意見を反映するといったところまではいいのですが、良い案が生まれても、実際に行われなければ意味がありません。そこで、同志社大学のプロジェクト科目を使います。このプロジェクト科目は、第三者がテーマを提案し、実際に学生に授業ができるのです。さらに、この科目は座学と違って、学生が主体となって実践的に活動を行う授業形式です。この仕組みを使うことで、市民の政策フォーラムで生まれた案をプロジェクト科目という形で実現させ、市民と学生が一緒に京田辺を良いものにしていくことができるのです。

4. まとめ

この私たちの考えた「民意をプロデュース計画」は、市民の政策フォーラムを行い、そこで生まれた案をプロジェクト科目として実際に行うことができるので、実現性が高いことが強みです。さらに、京田辺市には同志社大学や同志社女子大学があり、学生の数も多いので、高齢化が進んでいる今、これはかなりの強みだと考えられます。この「民意をプロデュース計画」によって、従来の学生が中心であるとか、市の職員が市民の要望に応えるといった形から、市民と学生が一緒にまちづくりを行っていくことができるようになるので、交流なども増えて、良い方向にいくと考えられます。

第 11 回全国大学まちづくり政策フォーラム in 京田辺報告書

発行年月 平成 29 年 4 月

発 行 「全国大学まちづくり政策フォーラム in 京田辺」 実行委員会
(事務局)

〒610-0393

京都府京田辺市田辺 80 番地

京田辺市 市民部 市民参画課内

TEL : 0774-64-1314

FAX : 0774-64-1305

電子メールアドレス : seisakuforum@city.kyotanabe.lg.jp

